



第三小学校の冬休みスキー教室(右端は竹田良和さん、1月13日、第三小グラウンドで)



旭岳で今季スキーシーズン始め(昨年11月28日)

トリグヴァ・マルクセツトさんの後任として昨年8月に来町。東川クロスカントリースキー少年団のコーチを引き継いで指導しています。今季団員のみんなどは、地方大会ながら優勝出来るまでに成長。低学年の子どもたちも新たに加入して団員は30人に増えました。

「竹田さんは去年から進歩していると言っているし、お母さんたちからも感謝されていると感じるよ」と充実感を実感しています。

「少年団の子どもたちには、もう少し上のポジションに行つて、将来オリンピックを目指すレベルになつてくれれば良いと思つてるよ。今はスキーの楽しさをしっかりと教えて、技術的なものはもう少し先。いろいろなスポーツをやらせたいと思つている」。

町教委生涯学習指導員の竹田良和さん(42)と二人三脚の指導もあつて10歳以上の子どもたちは30〜40分は走れる走力がついてきたそう。

◇ 2度にわたる手術、その後マイコプラズマ、ストレス性腸炎にかかる不運に見舞われ、現役選手続行を断念しました。しかし「スポーツに関わり続けたい」という強い思いが大学での学び直しへとつながつたようです。



「ホー、ホー、ホー」とサンタクロースで登場(昨年12月12日、農村環境改善センターで開いためだかクラブのクリスマスで)

「何年いることが出来るかわからないけれど、子どもたちをどうやって上達させたら良いか、いつも考えているんだ。フィンランドと東川の子どもたちの友好交流をしたと思つている。キャンプを計画してもいいし、少年団は年齢別のトレーニングを取り入れて技術的なものを深めていきたい。チャレンジしていきたいね。社会人のコーチも出来たらしてみたい。地域スポーツ全体にも貢献できたいらいいと思つているんだ」。

今夏には富士山ろくで開いてい

今、生き生きと 東川町スポーツ国際交流員 ヘンリック・エンケさん

今季に入つてスキー少年団の子どもたちの大会出場成績がグンと伸び始めています。「この間の大会はちょっとさあ…」などと言いつつ、話す子どもたちにも余裕(?)がうかがえるように。 「旭岳に連れて行つて、ナショナルチームレベルの練習を見るのがいい経験になつていいると思つて、目を細めています。」

富士山トレイルランの山岳トレイル大会に出場することを考えているそうです。「日本では最初の挑戦になるけれど、フィンランドではずっとやっていたから大丈夫」。

ヘンリック・エンケさん

フィンランド共和国中央スオミ県ユヴァスキュラ市出身、26歳。東川町スポーツ国際交流員。ラップランド大学スポーツ学科在学中(今夏卒業予定)。スポーツインストラクター学位取得予定。20歳の時に踵に大けがをして2度の手術を受け、その後現役復帰。22歳の2011年、フィンランド国内のフォロラチャンピオンシップ大会にも出場を果たしました。その後23歳から24歳にかけて各種ナショナルコンペティション大会に出場。(財)自治体国際化協会(JET)の外国人青年招へい事業で昨年8月、スポーツ国際交流員として来町。

